

産前検査

妊娠中に行われる赤ちゃんのための特別検査

Prenatal Testing

Special tests for your baby during pregnancy

胎児の発育をチェックするための産前検査はいくつかあり、それぞれの検査には長所と短所があります。本書の情報は次の方々を対象にしています：

- 妊娠を計画している方
- 既に妊娠している方で、こういった検査についての情報を求めている方

健康な赤ちゃんであることを **100%**保証する検査はありません。下記の検査は胎児の健康についていくらかの情報を提供することができますが、生じる可能性のあるすべての健康問題がこういった検査からわかるわけではありません。

NSW 州では通常、すべての妊婦に対して何らかの形の産前検査が提供されます。皆さんはご自分で

- 検査を受けたいかどうかを決めることができ(検査をまったく受けたくないという方もおられるでしょう)
- (まず自分の医者、助産婦、遺伝カウンセラーに相談した上で)どの検査が自分に最適かを決めることができます。

人によっては、重度の身体および/または知的障害の原因となる異常が胎児にあるかどうかを知りたいという理由で、産前検査を受けようとする方もいれば、産前検査は受けないと決める方もいます。受けるかどうかを決めるのは常にご本人です。

産前検査の種類

妊娠中に受けられる検査には様々なものがあり、スクリーニング検査もあれば、診断用検査もあります。

スクリーニング検査

スクリーニング検査からは、知的および/または身体障害の原因となる特定の異常が胎児にあるかどうかの「リスク」について知ることができます。これらの検査からは、胎児の健康について決定的な回答は得られません。スクリーニング検査の結果が、問題のある「リスクが高い」ことを示した場合には、診断用検査を受けることを考慮される場合もあるでしょう。さらに検査を受けることについては、その長所と短所についてご自分の医者、助産婦、遺伝カウンセラーに相談してく

ださい。スクリーニング検査は胎児にも妊婦にも悪影響を与えることはありません。

診断用検査

診断用検査の結果からは、胎児に知的および/または身体障害の原因となる異常があるかどうかについて、より決定的に知ることができます。これらの検査からは、胎児の健康について非常に信頼性の高い回答が得られます。一部の診断用検査(CVS や羊水穿刺による羊水検査 amniocentesis)は低い確率(1%未満)ですが流産の原因となる可能性があります。

診断用検査の結果が胎児に問題のあることを示した場合には、それが赤ちゃんにどのような影響を及ぼすのかについて学び、その上で妊娠を継続したいかどうかを決めることができます。この決定をする間や、その決定後は、医者、助産婦、遺伝カウンセラーから情報やサポートを受けられます。

下記の検査リストは妊娠中に受けられる産前検査について 妊娠段階別にまとめたものです。

遺伝カウンセリングや産前検査についてより詳しい情報をお求めの方は、ご自分の医者、助産婦、遺伝カウンセラーに尋ねるか、電話(02) 9926 7324 の Centre for Genetics Education にご連絡ください。 www.genetics.com.auでも情報が得られます。

英語で電話をすることが困難な方は、131 450 の翻訳・通訳サービス(TIS)にお電話ください。

マルチカルチュラルヘルスコミュニケーションのウェブサイト <http://mhcs.health.nsw.gov.au> では、これ以外にも日本語の保健関連情報をご覧いただけます。

様々な妊娠段階で受けられる検査

妊娠段階: 妊娠 8-10 週間

検査名

Dating ultrasound scan : 妊娠週数推定のための超音波検査

検査の種類

スクリーニング検査にも診断用検査にもなり得ます。

検査方法

マイクのような器具を妊婦の腹部に押しあてると、これが発育中の胎児の写真を映し出します。

この検査では何を調べますか？

この検査では次のことができます：

- 胎児の大きさをチェック
- 複数の胎児がいるかどうかチェック
- 心拍などの一部の身体的特徴を確認

胎児や妊婦に対するリスクはありますか？

この検査が胎児や妊婦に悪影響を及ぼすことはありません。

妊娠段階: 妊娠 11-13 週間

検査名

Chorionic villus sampling (CVS) : 絨毛膜サンプリング抽出検査

検査の種類

診断用検査

検査方法

超音波を利用しながら、小さな胎盤のサンプルを細い針を使って妊婦の腹部から、あるいは細く柔らかいチューブを使って子宮頸部(子宮の入口)からとり出します。

この検査では何を調べますか？

この検査では、胎児にあるかもしれない一連の知的および/または身体障害について確認することができます。これらは染色体異常と呼ばれるものです。さらに検査を行う必要が生じることもあります。

胎児や妊婦に対するリスクはありますか？

低い確率で(1%未満)、この検査が流産の原因となる可能性があります。妊婦は検査中いくらか痛みを感じる場合があります。

妊娠段階: 妊娠 11½-13½ 週間

検査名

Nuchal translucency (ultrasound) test : 背頸部の透過性(超音波)検査 (妊婦の血液検査を伴う場合と伴わない場合があります)

検査の種類

スクリーニング検査

検査方法

超音波を利用して、胎児の特定部分の測定(nuchal translucency)が行われます。血液検査のために妊婦の血液サンプルがとられる場合もあります。

この検査では何を調べますか？

この検査からは、一定の知的および/または身体障害を生じるリスクが高いかどうかを知ることができます。

検査を受ける胎児の約 **5%**にリスクが高いという結果が出る可能性がありますが、これら胎児の大半には**問題は生じません**。

血液検査を行わずにこの検査を行った場合:

ダウン症と呼ばれる知的/身体障害のある胎児の約 **75%**にリスクが高いという結果が出ます。ダウン症のある胎児の **25%**には、この検査で高リスクという結果は出ません。

血液検査と併せてこの検査を行った場合:

ダウン症の胎児の約 **80-90%**はリスクが高いという結果が出ます。ダウン症の胎児の **10-20%**は、この検査でリスクが高いという結果は出ません。

胎児や妊婦に対するリスクはありますか？

この検査が胎児や妊婦に悪影響を及ぼすことはありません。

妊娠段階: 妊娠 15-18 週間

検査名

Maternal serum triple test : 母体血清トリプルマーカー検査

検査の種類

スクリーニング検査

検査方法

検査用に妊婦の血液サンプルがとられます。

この検査では何を調べますか？

この検査からは、胎児に一定の知的および/または身体障害があるリスクが高いかどうか分かります。

検査を受けた胎児の約 **5%**はリスクが高いという結果が出る可能性がありますが、これら胎児の大半には**問題は生じません**。

ダウン症の胎児の約 **60%**にリスクが高いという結果が出ます。ダウン症の胎児の **40%**はこの検査では高リスクという結果は出ません。

この検査を詳細な超音波検査と同時に行うと、脊髄障害や神経管障害のある胎児の約 **95%**を見つけることができます。

胎児や妊婦に対するリスクはありますか？

この検査が胎児や妊婦に悪影響を及ぼすことはありません。

妊娠段階: 妊娠 15-19 週間

検査名

Amniocentesis : 羊水穿刺による羊水検査

検査の種類

診断用検査

検査方法

超音波を利用して、少量の羊水(子宮内の胎児をとりまく液体)を細い針を使って妊婦の腹部からとり出します。

この検査では何を調べますか?

この検査では、胎児にあるかもしれない一連の知的および/または身体障害について確認することができます。これらは染色体異常と呼ばれるものです。

胎児や妊婦に対するリスクはありますか?

低い確率で(1%未満)、この検査が流産を起こす可能性があります。妊婦は検査中いくらか痛みを感じる場合があります。

妊娠段階: 妊娠 18 週間

検査名

Detailed fetal anomaly ultrasound scan : 胎児の発育異常を調べる超音波検査

検査の種類

診断用検査

検査方法

マイクのような器具を妊婦の腹部に押しあてると、これが発育中胎児の写真を映し出します。

この検査では何を調べますか?

この検査では胎児の大きさのほか、心臓、脳、腎臓の発育などの多くの身体的特徴をチェックすることができます。

胎児や妊婦に対するリスクはありますか?

この検査が胎児や妊婦に悪影響を及ぼすことはありません。